

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 12 章 43~50 節>

①関係ないように思える二つの話が並んでいる。なぜここに？

一見、関係ないように思える二つの話が並んでいます。しかし本当に関係ないのでしょくか？ また、12 章は、何があってもイエス様を信じようとしなないファリサイ人が取り上げられてきました。そのこととの関係はどうなつたのでしょうか？ マタイは何を考えてこの二つをここに記したのか？ それがここを読むときの鍵です。

②イエス様を受け入れる時を逃さない！

汚れた霊が出て行って、それに代わる誰かが入るために清掃された「空き家」(43)。これは明らかに私たち自身のことであり、イエス様を迎え入れるべき時のことが考えられています。「空き家」の原語は、「何もしていない、空っぽ」という意味です。試練に遭って自分の力ではどうすることもできず自信を失ってしまった時など、私たちは何もできず、空っぽの状態になります。普通、それは絶望的な状態です。しかし、本当はそのような状態は、「誇る者は主を誇れ」(I コリント 1 : 31 以下) とパウロが語つた意味が分かるようになる恵みの戸口に立っている時でもあるのです！ ファリサイ人のようになってはいけない、私を受け入れなさい、そう主イエスは言われているのです。

③「自分も同じ」と思つて他人を裁かない。これ、平安の秘訣！

「この悪い時代の者たちもそのようになろう」(45)とイエス様は言われました。主を受け入れない人たちが多かつたのです。しかし、だからと言つて、ここを読んで信仰者が信仰を持たない人を裁いて良いわけではありません。私たち人間は皆、信仰者となつても、イエス様に従うより、自分が望むこと選んでしまいやすい存在だからです。自分も同じ、そう思いながら他者を見守れるようになりたいものです。

④新しく、これが本当の「神の家族」のメンバーになろう！

「私の母とは誰か。私の兄弟とは誰か」(48)。このイエス様の言葉に人々は驚き、どうしたことかと思つたでしょう。だから大事なのはその次の言葉です。「誰でも、私の天の父の御心を行う人が、私の兄弟、姉妹、また母である」(50)。昔からイエス様を信じて家族から見放された人は大勢いました。他の理由で家族を失う人も大勢います。その人たちにとって、このイエス様の言葉はどんなに励ましになつたでしょう！ 教会は、このイエス様を与えて下さつた神様を父母として持つ、新しい「神の家族」(エフェソ 2 : 19) なのです！ 誰でも皆、見放されることはもうない家族のメンバーに招かれているのです！